



INFINITY

OLIS
Oriental Life Insurance Seminar

公益財団法人アジア生命保険振興センター

*Public Interest Incorporated Foundation
Oriental Life Insurance Cultural Development Center
Tokyo, Japan*



理事長ご挨拶

当財団は、アジア諸国における生命保険に関する知見の深化と人材の育成を通じ生命保険業の健全な発展に寄与することを目的として、故川井三郎博士により1967年に創設されました。以来、当財団は国内外で生命保険セミナーを開催してきましたが、東京セミナーの参加者だけでも約5,000名となりました。その多くは生命保険会社や監督官庁に勤める新進気鋭の方達で、今やそれぞれの国の業界や行政府において重要なポストを占めている人も少なくありません。

また、アジア諸国の方を対象にした研修に加え、日本国内の大学生・社会人などを対象とした保険フォーラムや、大学に生命保険寄附講座を提供することで、国内での保険制度や保険事業の普及教育にも努めています。

アジアの時代と言われる今世紀ですが、人口動態が大きく変化し社会環境が激変することは避けられないでしょう。当財団はアジア諸国の生命保険協会や監督官庁並びに生保各社との親密な協力関係を一層強化し、生命保険業界に求められる新たな役割を共に紡ぎ出していきたいと考えています。

2020年には新型コロナウイルスの世界的流行の影響で、財団の活動が展開できない状況を経験しました。この難関を乗り越えてアジア諸国の生命保険事業のさらなる発展に貢献するため、新たな財団事業継続の形態を検討していきます。

最後になりますが、当財団が半世紀の長きにわたって事業を続けてこられたのも、国内外の多くの皆様のご支援ご協力の賜物です。特にプルデンシャルグループのジブラルタ生命とプルデンシャル生命の2社のご支援には深く感謝申し上げます。

2021年8月



理事長 首藤 善弘

OLIS
Oriental Life Insurance Seminar

Public Interest Incorporated Foundation
Oriental Life Insurance
Cultural Development Center
Tokyo, Japan

沿革

1967年	旧協栄生命保険株式会社（現ジブラルタ生命保険株式会社）の社長・故川井三郎博士の発意により、同社創立20周年記念事業として財団法人東南アジア生命保険振興センターを設立
1970年	第1回ASEA [※] （Actuarial Seminar of East Asia）を後援 ※ASEA:日本アクチュアリー会が主催する「東アジアアクチュアリー講座」
1973年	第1回Oriental Life Insurance Seminar (OLIS)を開催
1981年	第1回海外現地セミナー（タイ、インドネシア）を開催
1990年	川井三郎氏より10億円寄付を受ける
1998年	川井三郎氏逝去。同氏より2.2億円寄付を受ける
2001年	ジブラルタ生命保険株式会社が、経営破綻した協栄生命保険株式会社の地位を継承
2006年	活動範囲をアジア全体に拡大するため、日本語名称を「アジア生命保険振興センター」に変更
2011年	公益認定を受けて、公益財団法人に移行
2012年	創立45周年を記念して「川井記念OLISアジア生命保険シンポジウム」開催
2017年	創立50周年を記念して「OLIS創立50周年記念生命保険シンポジウム」開催

事業の紹介

■ 研修事業

● 東京セミナー

アジア諸国の生命保険会社等の管理職や実務担当者を対象に、年数回東京で開催しています。1回あたりの参加者は40名前後、期間は1週間程度で、研修の基本言語は英語です。さまざまな論題に関する専門家の講義を聴いて知見を深めるだけでなく、グループディスカッションなどを通じて相互交流も図っています。



東京セミナー

参加者の所属する会社や組織には日本までの往復旅費を負担いただきますが、セミナーに付随する宿泊費、食費等の諸経費は当財団が負担します。

これまで約5,000名の研修生がアジア諸国・地域から参加しました。

● 海外現地セミナー

アジア諸国の生命保険協会などの保険関連機関の協力を得て、各国の首都などで開催しています。現地の要望に応えるテーマを中心としたセミナーで、より多くの方の参加を可能にしています。



海外現地セミナー

■ 教育振興事業

● 寄附講座

大学生の生命保険に関する知見を深め、将来生命保険に関わる研究家および生命保険業務に携わる人材の育成を目的として、生命保険に関する講座を開く大学から選考して寄附講座を開設しています。これまでは、2010年から慶應義塾大学にて、また2014年からは中央大学にて「OLIS生命保険寄附講座」を開いています。



保険フォーラム

● 保険フォーラム

生命保険分野で国際的に活躍できる人材の育成を目的に、多くの学生や若手の研究者に生命保険に関する知見を深め生命保険業界への興味を高めてもらえるよう、さまざまな大学と連携して保険フォーラムやセミナーなどを企画・運営しています。これまで慶應義塾大学をはじめ、日本大学、東京女子大学、日本女子大学、中央大学、津田塾大学、琉球大学、明治大学、東北大学、お茶の水女子大学、九州大学、首都大学東京、上智大学、大阪大学、一橋大学、東京理科大学、早稲田大学、東京大学、北海道大学、奈良女子大学、名古屋大学、京都大学、東京工業大学、法政大学の各大学で開催いたしました。（2021年8月現在）

● タイ育英奨学金

大学レベルにおける生命保険教育の促進などを目的に、当財団は2008年から毎年、タイ生命保険協会が選んだ大学生10名程度に1人5,000バーツの育英奨学金を給費しています。

■ 広報・出版事業

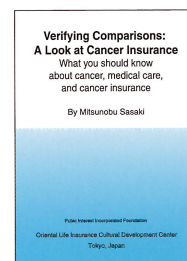
● ホームページによる広報 [www.olis.or.jp]

財団のウェブサイトでは、セミナー予定や実施したセミナーの紹介だけでなく、セミナーで使われたテキストも原則公開しています。また、現在の中国の状況を日本語で伝える「中国レポート」や、逆に日本の生命保険の状況を英語と中国語で伝える「日本の生保事情」も掲載しています。

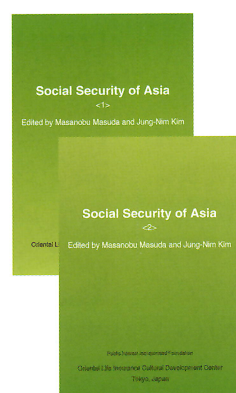


● 書籍の出版

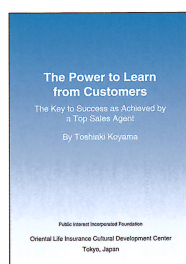
アジア諸国の生命保険関係者にとって参考となる日本国内の出版物を選んで英訳し、無償で配布しています。2011年は日本の生命保険会社の経営破綻の内情を詳らかにした「平成生保危機の真実」(植村信保)、2013年はアジアの少子高齢化問題に切り込んだ「老いてゆくアジア」(大泉啓一郎)、2015年3月には「生保マーケティング 消費者心理を探る」(井上智紀)、2016年3月と2016年12月には「アジアの社会保障」(増田雅暢、金貞任)を、2017年には「お客様から教わる力」(小山聡章)を、2019年には「FinTechは保険業界の「何」を変えるのか」(藤井秀樹、松本忠雄)を、2020年には「生保会社の経営課題」(小藤康夫)を英訳出版し、いずれも各方面から高い評価をいただきました。2021年には「比較検証、がん保険」(佐々木光信)を英訳出版し、「FinTechは保険業界の「何」を変えるのか」(藤井秀樹、松本忠雄)を中訳(繁体字)出版しました。



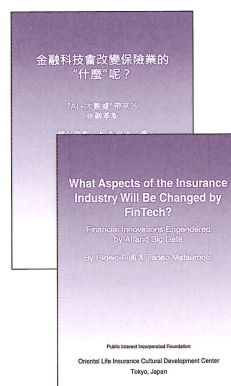
〔英訳版〕
比較検証、がん保険



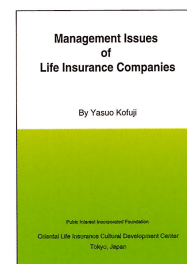
〔英訳版〕
アジアの社会保障<1>、<2>



〔英訳版〕
お客様から教わる力



〔英訳/中訳版〕
FinTechは保険業界の「何」を変えるのか



〔英訳版〕
生保会社の経営課題